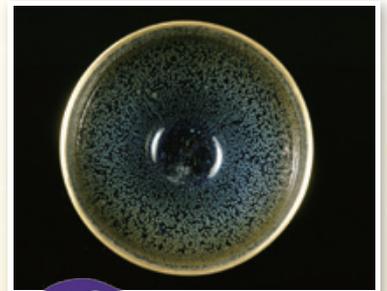


# 2017

平成29年度 独立行政法人

## 国立文化財機構 概要



# 目次



**国立文化財機構：**  
 発足から10年の節目となるこの機に、ロゴマークを作成しました。  
 コンセプト：「結び」  
 形は結びヒモとDNAのらせんの形をかけたデザインです。  
 「結びヒモ」は「人と文化のつながり（文化財）」を、「DNA」は「昔と今と未来のつながり（伝承）」をイメージしております。  
 文化の遺伝子を深く理解し、世界中の人々へ魅力的に伝承する国立文化財機構の姿勢（こころ）を表現しております。

(表紙写真)



**東京国立博物館：**  
 重要文化財 鳥獣人物戯画断簡（ちょうじゅうじんぶつぎかだんかん） 平安時代・12世紀



**京都国立博物館：**  
 国宝 天橋立図（あまのはしだてず） 室町時代・16世紀



**奈良国立博物館：**  
 国宝 金光明最勝王経 卷第九（国分寺経）（こんこうみょうさいしようおつきよう かんたいい9（こくぶんじきょう）） 奈良時代・8世紀



**九州国立博物館：**  
 重要文化財 油滴天目（ゆてきてんもく） 中国・南宋時代・13世紀



**東京文化財研究所：**  
 国際研修「紙の保存と修復」における卷子修復の実演



**奈良文化財研究所：**  
 カンボジア西トッ遺跡北祠堂の調査



**アジア太平洋無形文化遺産研究センター：**  
 無形文化遺産に関する法制度研究ワークショップ(ベトナム・ハノイ)

ごあいさつ	1
I 国立文化財機構のあらまし	2
II 国立文化財機構の事業	5
1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信	5
(1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承	5
■ 収集	
■ 保存・修理	
(2) 展覧事業	5
■ 展示・公開	
■ 博物館来館者数	
(3) 教育普及活動等	6
(4) 有形文化財（美術工芸品）の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究	6
(5) 国内外の博物館活動への寄与	6
2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施	6
(1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究	6
(2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究	7
(3) 文化遺産保護に関する国際協働	7
(4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用	7
(5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等	7
III 各施設の活動	8
東京国立博物館	8
京都国立博物館	10
奈良国立博物館	12
九州国立博物館	14
東京文化財研究所	16
奈良文化財研究所	18
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	20
IV 資料	22
役員	
運営委員会	
外部評価委員会	
職員数	
組織図	
予算	
外部資金受入	
国立文化財機構からのお知らせ	24
寄附・寄贈	
会員制度	
ユニークベニュー	
多様な観覧機会の確保	

# ごあいさつ

## 松村 恵司

独立行政法人国立文化財機構理事長  
(奈良文化財研究所長)



国立文化財機構は2007年に「独立行政法人国立博物館」の4つの博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）と、「独立行政法人文化財研究所」の2つの研究所（東京文化財研究所、奈良文化財研究所）が統合して発足し、2011年にアジア太平洋無形文化遺産研究センターが新たに加わり、現在、7つの施設で構成されています。この冊子はこれら7施設の概要並びに活動状況をご紹介します。本年は機構発足から10年の節目の年を迎えますが、名実ともに我が国の文化財保護施策の中核を担う機関として成長を遂げ、各施設はそれぞれの特色を活かした運営を展開しています。

2016年度から第4期中期計画がスタートしましたが、この中期計画期間中には、2019年にICOM(国際博物館会議) 京都大会や、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されるなど、日本文化に対する国際的関心が高まることが予想されます。ICOM京都大会を成功させるとともに、こうした機会を生かして日本の歴史や多様な伝統文化の魅力を国内外に積極的に発信し、博物館活動のさらなる活性化と、文化財保護意識の成熟につなげたいと思います。そのためには多言語化の推進、柔軟な観覧機会の提供など、快適で魅力ある博物館運営を心がけ、調査研究成果を国内外に分かりやすく解説するなど、質の高いサービスの提供に一層努めていきたいと考えています。

また、昨年の熊本地震や2011年の東日本大震災の経験を踏まえ、大規模災害に備えた文化財の防災・減災のための技術的検討や、被災文化財の全国的な救援体制の構築、救出文化財の安定化処置ならびに修復方法に関する調査研究の推進が喫緊の課題となっています。このため、文化庁をはじめとする関係機関との連携・協力を一層深め、文化財防災ネットワークの強化に着実に取り組んでいきたいと思っています。

文化財は我が国の成り立ちを示す歴史的、文化的な遺産です。国立文化財機構は、この貴重な文化財の保存と活用を適切に図り、次世代に確実に継承するために、これからも文化財の収集・保管・展示・調査研究・情報発信に邁進していく所存です。何卒皆様方の暖かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

# 国立文化財機構のあらまし

独立行政法人国立文化財機構は、ともに文化財の保存及び活用という同一の目的を有する独立行政法人国立博物館（東京国立博物館、京都国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）と、独立行政法人文化財研究所（東京文化財研究所、奈良文化財研究所）の二つの法人の統合により、平成19年4月に発足いたしました。平成23年10月に開所したアジア太平洋無形文化遺産研究センターを加え、現在では7つの施設で構成されています。

統一的なマネジメントの下で、貴重な国民的財産である文化財の保存・活用を一層効果的かつ効率的に推進するため、各施設はそれぞれ次のような役割を果たしています。

## 東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

## 京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

## 奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

## 九州国立博物館

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。

## 東京文化財研究所

我が国の文化財の研究を、基礎的なものから先端的・実践的なものまで多様な手法により行い、成果を積極的に公表・活用するとともに、世界の文化財保護に関する国際的な研究交流等を実施する国際協力の拠点としての役割を担っています。

## 奈良文化財研究所

平城宮跡に隣接し、遺跡・建造物・庭園等の土地に結びついた文化財及び南都諸大寺及び近畿周辺を中心とした古社寺等における文化財の保存・活用を図るために発掘調査・研究を行うとともに、全国各地の発掘調査等に対する協力・助言等を行っています。

## アジア太平洋無形文化遺産研究センター

アジア太平洋地域における危機に瀕した無形文化遺産保護のための調査活動や、無形文化遺産保護の国際的動向に関する情報収集と配信を行っています。



## 東京国立博物館



〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9  
TEL：03-3822-1111（代表）  
<http://www.tnm.jp/>

### 利用案内

開館時間／9：30～17：00（入館は閉館の30分前まで）  
金曜日、土曜日及び11月2日（木）は21：00まで  
4月～9月の日祝休日は18：00まで  
9月22日（金）、23日（土・祝）は22：00まで  
休館日／月曜日（祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館）  
ただし4月3日（月）、5月1日（月）、8月14日（月）10月10日（火）、12月25日（月）、30年3月26日（月）は開館  
年末年始（12月26日～1月1日）  
※特別展やイベント等の開催に伴い、開館時間・休館日は変更になることがあります

### 周辺地図



JR上野駅公園口、または鶯谷駅南口から徒歩10分  
東京メトロ上野駅、根津駅、京成電鉄京成上野駅から徒歩15分

観覧料／一般 620（520）円 大学生 410（310）円  
※（ ）内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金  
※障がい者とその介護者1名は無料  
※満70歳以上、高校生以下及び満18歳未満は総合文化展について無料  
※国際博物館の日（5月18日）。ただし月曜日に当たる場合は翌日、敬老の日は、総合文化展について無料



# 京都国立博物館



〒605-0931  
 京都府京都市東山区茶屋町527  
 TEL : 075-541-1151  
<http://www.kyohaku.go.jp/>

## 利用案内

開館時間 / 名品ギャラリー 9:30~17:00  
 特別展覧会 9:30~18:00  
 ただし、毎週金・土曜日は20:00まで  
 (7月~9月については21:00まで)  
 ただし、庭園のみ開館期間中は9:30~17:00まで  
 ※入館は閉館の30分前まで  
 休館日 / 月曜日(月曜日が祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館)、年末年始、  
 その他特別展準備及び撤収期間は名品ギャラリーを閉室します。  
 観覧料 / 一般 520(410)円 大学生 260(210)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※満70歳以上、高校生以下及び満18歳未満は無料  
 ※障がい者とその介護者1名は無料  
 ※特別展覧会は別料金

## 周辺地図



JR・近鉄京都駅下車、駅前市バスD1のりばから100号、D2のりばから206・208号系統にて博物館・三十三間堂前下車、徒歩すぐ  
 京阪電車 七条駅下車、東へ徒歩7分  
 阪急電車 河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分  
 または、河原町駅下車、四条河原町から市バス207号系統にて東山七条下車、徒歩3分  
 ※駐車場は有料となっております。ご来館はなるべく公共交通機関をご利用ください。



# 奈良国立博物館



〒630-8213 奈良県奈良市登大路町50  
 TEL : 0742-22-7771  
<http://www.narahaku.go.jp/>

## 利用案内

開館時間 / 9:30~17:00 (入館は閉館の30分前まで)  
 開館時間延長日  
 ・毎週金・土曜日(12月29日・30日除く)、節分(2月3日)は20:00まで  
 ・その他、周辺行事にあわせ開館時間を延長します。  
 ※特別展(共催展を含む)は展覧会ごとに定めます。  
 休館日 / 月曜日(祝日・休日にあたる場合は開館し、翌日休館。ただし、2月13日を除く)、1月1日  
 ※7月31日から8月10日まで、青銅器館休館  
 ※平成30年1月10日から12日まで、なら仏像館休館  
 ※その他臨時に休館することがあります。  
 最新の情報はホームページをご覧ください

## 周辺地図



近鉄奈良駅下車 登大路を東へ徒歩15分  
 JR奈良駅または近鉄奈良駅から市内循環バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

観覧料 / 一般 520(410)円 大学生260(210)円  
 ※( )内は20名以上の団体料金  
 ※特別展は別料金  
 ※障がい者とその介護者1名は無料  
 ※満70歳以上、高校生以下及び満18歳未満は名品展について無料  
 ※こどもの日、国際博物館の日(5月18日。ただし月曜日にあたる場合は翌日)、敬老の日、関西文化の日、おん祭お渡り式の日、節分は名品展について無料



# 九州国立博物館



〒818-0118 福岡県太宰府市石坂4-7-2  
 TEL : 092-918-2807 (代表)  
<http://www.kyuhaku.jp/>

## 利用案内

開館時間 / 日曜日・火曜~木曜日  
 9:30~17:00 (入館は16:30まで)  
 金曜日・土曜日  
 9:30~20:00 (入館は19:30まで)  
 休館日 / 月曜日(月曜日が祝日・休日の場合は開館、翌日休館)、年末  
 文化交流展(平常展)観覧料 / 一般 430(220)円 大学生130(70)円  
 ※( )内は団体料金(有料の方が20名以上の場合)  
 ※特別展は別料金  
 ※障害者手帳等をご持参の方とその介護者1名は無料  
 ※満70歳以上、高校生以下及び満18歳未満は文化交流展(平常展)について無料  
 ※国際博物館の日(5月18日。ただし休館日にあたる場合は翌日)  
 および敬老の日は、文化交流展(平常展)について無料

## 周辺地図



鉄道 西鉄電車：西鉄福岡(天神)駅から西鉄天神大牟田線(特急約13分/急行約17分)で西鉄二日市駅乗り換え、西鉄太宰府線(約5分)で西鉄太宰府駅下車、徒歩約10分。  
 ※特急/急行料金不要  
 JR：JR博多駅からJR鹿児島本線(快速約15分)でJR二日市駅下車、JR二日市駅から西鉄二日市駅(徒歩約12分、バス約5分)、西鉄二日市駅から西鉄太宰府線利用。  
 自動車 九州自動車道：太宰府ICまたは筑紫野ICから高雄交差点経由で約20分。  
 福岡都市高速：水城出口から高雄交差点経由で約20分。  
 タクシー JR二日市駅から約15分・福岡空港から約30分。  
 西鉄バス 博多バスターミナル(1階11番のりば太宰府行き)から西鉄太宰府駅下車(所要時間約40分)、徒歩約10分。

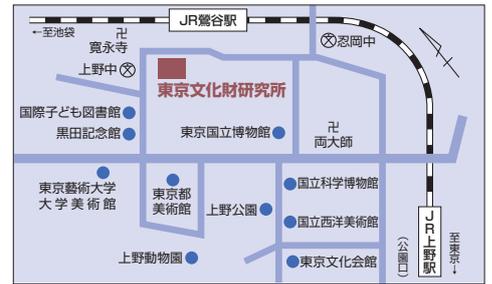


# 東京文化財研究所



〒110-8713  
東京都台東区上野公園13-43  
TEL : 03-3823-2241 (代表)  
<http://www.tobunken.go.jp/>

## 周辺地図



JR鶯谷駅南口下車 徒歩10分  
JR上野駅公園口下車 徒歩15分  
東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅下車 徒歩20分  
千代田線根津駅下車 徒歩20分  
京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩20分



# 奈良文化財研究所



〒630-8577 奈良県奈良市佐紀町247-1  
TEL : 0742-30-6733 (代表)  
<http://www.nabunken.go.jp/>

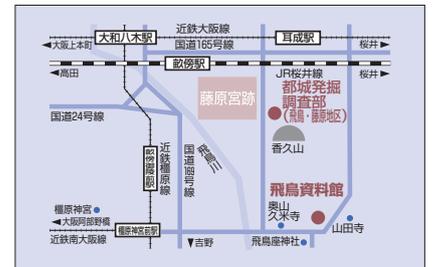
## 周辺地図 奈良地区



●鉄道利用の場合  
奈良文化財研究所・平城宮跡資料館  
近鉄大和西大寺駅北口より徒歩10分

●バス利用の場合  
JR・近鉄奈良駅より奈良交通バス  
奈良文化財研究所・平城宮跡資料館「二条町」下車

## 飛鳥・藤原地区



都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区)  
飛鳥資料館  
近鉄大和八木駅よりタクシーで20分  
近鉄橿原神宮前駅よりタクシーで20分  
近鉄橿原神宮前駅・飛鳥駅より明日香周遊バス(かめバス)「飛鳥資料館」下車近鉄桜井駅より奈良交通バスで「飛鳥資料館」下車

## 利用案内

- 平城宮跡資料館  
開館時間/9:00~16:30 (入館は16:00まで) (無料)  
休館日/月曜日(祝日・休日の際は開館し、翌平日休館)、年末年始  
お知らせ/ボランティアによる解説を行っています。(無料)  
お問合せ/奈良文化財研究所研究支援推進部連携推進課: 0742-30-6753
- 藤原宮跡資料室  
開館時間/9:00~16:30 (無料)  
休館日/年末年始および展示替え期間中  
お問合せ/奈良文化財研究所都城発掘調査部 (飛鳥・藤原地区): 0744-24-1122

## ●飛鳥資料館

- 開館時間/9:00~16:30 (入館は16:00まで)  
休館日/月曜日(祝日・休日の際は開館し、翌平日休館)、年末年始  
入場料金/一般 270 (170) 円  
大学生 130 (60) 円  
※( )内は20名以上の団体料金  
※特別展は別料金場合があります。  
※障がい者とその介護者1名は無料  
※高校生および18歳未満、65歳以上は無料  
お知らせ/解説を行っています。(事前申込制、無料)  
お問合せ/飛鳥資料館: 0744-54-3561

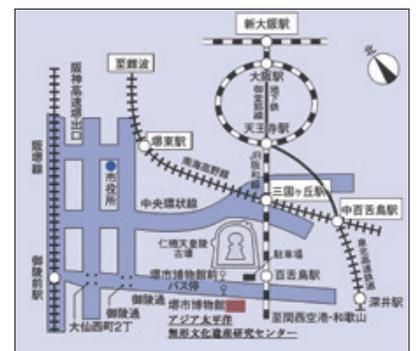


# アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)



〒590-0802 大阪府堺市堺区百舌鳥夕雲町2丁 (堺市博物館内)  
TEL : 072-275-8050 (代表)  
<http://www.irci.jp>

## 周辺地図



●JR西日本阪和線・関西空港線「百舌鳥」駅下車徒歩6分  
南海バス「堺市博物館前」下車徒歩4分

## 国立文化財機構は、次のような事業を展開しています。

## 1 有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

## (1) 有形文化財の収集・保管、次代への継承

歴史・伝統文化の保存と継承の中核的拠点として、体系的・通史的にバランスのとれた収蔵品の蓄積を図る観点から、各国立博物館はその収集方針に沿って適時適切な収集に努めています。

寄贈品や寄託品の受入れについても、文化庁とも連携し、登録美術品制度の活用や相続税の猶予措置などといった税制面での環境整備を進めるなど、積極的に取り組んでいます。

また、国民共有の貴重な財産である文化財を永く次代へ伝えていくため、収蔵品等の管理を徹底し、文化財の保存環境を整備するとともに、修理・保存処理を必要とする収蔵品については、機構の保存科学研究員と機構内外の修復技術の担当者の連携の下、伝統的な修理技術とともに科学的な保存技術の成果を取り入れ、緊急性の高い収蔵品から順次計画的に修理を行い、文化財保存修理所等は文化財防災も視野に入れながら、国と協力して整備充実を図っています。

## ■収集

体系的・通史的にバランスの取れた収蔵品の蓄積を図るため、また、有形文化財の散逸や海外流失を防ぐため、有形文化財の収集（購入・寄贈・寄託）に不断の努力を続けています。

また、4博物館それぞれの特色を生かし平常展をさらに充実させるため、社寺や個人が所有する文化財の寄託を受け入れています。

## 収蔵品

(件) [参考]

合 計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館			奈良文化財研究所	
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	国宝	重文
127,453	132	983	117,190	88	636	7,794	28	198	1,886	13	112	583	3	37	0	8

(平成29年3月31日現在)

## 寄託品

(件)

合 計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文	総数	国宝	重文
12,127	195	1,189	3,075	55	258	6,189	86	620	1,958	52	299	905	2	12

(平成29年3月31日現在)

## ■保存・修理

有形文化財はおおよそ100年に1回の本格修理を重ね、今日まで伝世しています。機構では日常的な展示・保管のための応急（対症）修理や、収蔵品の損傷の進行状況に合わせた計画的な本格修理を実施しています。

## (2) 展覧事業

常にお客様のニーズ、最新の学術的動向などを踏まえ、かつ国際文化交流にも配慮しながら質の高い展示、魅力ある展覧会を開催することにより、日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解が深められるよう、国内外への情報発信に努めています。

また、お客様に親しまれる施設を目指し、夜間開館の拡充、施設の多言語化、バリアフリー化、各種案内の充実など、より良い観覧環境の整備とお客様の声を伺いながら管理運営の見直し改善を行うなど、常にお客様の立場に立った展覧事業に努めています。

## ■展示・公開

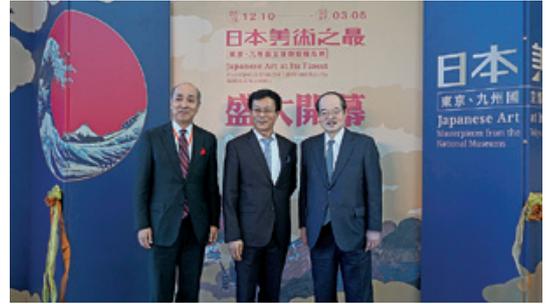
国宝・重要文化財をはじめとする古美術品や考古資料等の文化財に接し、美や感動を味わっていただくため、各国立博物館の特色を十分に発揮した平常展・特別展等を開催しています。また、海外の博物館・美術館とも協力・連携して、相互に文化を紹介する展覧会を開催しています。

## ■博物館来館者数（平成28年度）

合 計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
3,663,777人	1,907,647人	384,340人	449,322人	922,468人



なら仏像館名品展「珠玉の仏たち」(奈良国立博物館)



海外展「日本美術の粋 東京・九州国立博物館精品展」  
(台湾・国立故宮博物院南院)  
平成28年12月10日～平成29年3月10日

### (3) 教育普及活動等

日本及びアジア諸地域の歴史・伝統文化についての理解促進を図るため、学校や社会教育団体などと連携協力しながら、講演会、ワークショップ等の学習機会を提供しています。また、教育活動のさらなる充実を図るためのボランティア活動の支援や、大学との連携事業、博物館関係者・修理技術者等を対象とした研修等による人材育成等の事業も行っています。

また、ウェブを活用した文化財情報の発信や、各種資料の収集と公開、展示や教育事業等の積極的広報を行っています。



京都国立博物館の文化財ソムリエによる訪問授業



九州国立博物館におけるガムランワークショップ

### (4) 有形文化財(美術工芸品)の収集・保管・展覧事業・教育普及活動等に関する調査研究

有形文化財の収集・保管・展示事業・教育活動等に関する調査研究を計画的に実施し、海外の優れた研究者を招いた国際シンポジウムを開催するとともに職員を海外の研究機関や国際会議に派遣し、先進的かつ有用な情報を集積し調査研究を行っています。

その成果などを刊行物やWebサイトの活用など様々な方法で広く公開することにより、次世代への継承及び我が国文化の向上に寄与しています。



科研による聖徳太子絵伝の調査

### (5) 国内外の博物館活動への寄与

収蔵品を国内外でご覧いただけるよう保存状態を勘案しつつ、国内外の博物館等へ積極的に貸与するとともに、指導・助言を行い、情報交換等及び文化財等防災ネットワークの形成に努めています。



国際シンポジウム「日本美術をみせるーリニューアルとリバージョンー」平成29年1月28日～29日

## 2 文化財及び海外の文化遺産の保護に貢献する調査研究、協力事業等の実施

貴重な文化財を次代へ継承していくために必要な知識・技術の基盤の形成に寄与するため、以下の調査研究を行っています。

### (1) 新たな知見の開拓につながる基礎的・探求的な調査研究

国内外の機関との共同研究や研究交流を含め、文化財に関する基礎的・体系的な調査研究や文化財の保存・活用のための

調査研究に取り組んでいます。その成果は、基礎的データの増大や学術的知見の蓄積、文化財指定等の基礎資料の提供につながり、国・地方公共団体における文化財保護施策の企画・立案、文化財の評価等に関し、個別的・総合的に寄与しています。



手彫りの三味線駒製作者 大河内正信氏



国宝・旧富岡製糸場 目地試験施工の状況

## (2) 科学技術を応用した研究開発の進展等に向けた基盤的な研究

文化財の価値や保存に関する研究の進展を図るため、次のような研究開発及び調査研究に取り組んでいます。

- ①文化財の調査手法に関する研究開発を推進し、科学技術を的確に応用し、文化財の調査手法の正確性、効率性等の向上に寄与しています。また、文化財を生み出した文化的・歴史的・自然的環境等の背景やその変化の過程を明らかにすることに寄与しています。
- ②文化財の保存科学や修復技術・修復材料・製作技法に関する中核的な研究拠点として、最新の科学技術を応用し、文化財研究としての新たな技術の開発を進め、国内外の機関との共同研究や研究交流を図り、先端的な調査研究を推進しています。



可搬型X線折分析装置を用いた煉瓦造文化遺産の調査

## (3) 文化遺産保護に関する国際協働

海外の文化遺産情報の収集・研究・発信や、諸外国での文化遺産保護協力事業実施のほか、文化遺産の保存・修復に関する人材育成や技術移転などの事業を総合的に展開することで、我が国が有する文化遺産保護に関する知識・技術・経験を活かしながら、この分野での国際協力を推進しています。また、アジア太平洋地域において活動する研究者や研究機関等を支援し調査研究活動を促進するとともに、関係機関と連携のもと、自然災害等によって危機に瀕したものに重点を置きつつ当該地域の無形文化遺産保護のための調査研究を行うなど、人類共通の財産である有形・無形の文化遺産の保護のための活動を通じて、諸外国との文化的交流及び相互理解の促進に貢献しています。



国際専門家会合「無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング」

## (4) 文化財に関する情報資料の収集・整備及び調査研究成果の公開・活用

文化財に関する資料の収集・整理・保管を行うとともに、情報や調査研究成果を広く外部に公開・提供するために、文化財に関する資料の電子化の推進及び専門的アーカイブの拡充、公開講演会や国際シンポジウムの開催、各施設ウェブサイトの充実などに取り組んでいます。また、奈良文化財研究所の平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館においては、調査研究成果に関する展示を充実させ、広く一般の方に理解を深めていただけるよう努めています。



第11回公開学術講座での実演風景

## (5) 地方公共団体等を対象とする文化財に関する研修及び協力等

これまでの調査研究成果を活かし、地方公共団体等のニーズを踏まえた研修を実施し、知識・技術の向上に寄与するとともに、連携大学院教育を実施し、今後の我が国の文化財保護における中核的な人材育成を行っています。また、平成23年に発生した東日本大震災では、文化庁の要請により行った文化財等救援活動において、中心的な役割を担いました。この経験を活かし、今後予想される巨大地震等大規模災害に対し文化財等の防災・救援等を行うネットワークを構築するため、全国的な連携・協力体制の整備に向けて調査研究、人材育成等を行っています。



「地質考古調査課程」研修風景

# TNM 東京国立博物館

我が国の人文系の総合的な博物館として、日本を中心として広くアジア諸地域にわたる文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



東京国立博物館長  
銭谷 眞美

東京国立博物館は、明治5年（1872）に創立された、日本でもっとも長い歴史を持つ博物館です。

数多くの国宝・重要文化財をはじめとした、11万7千件にのぼる文化財を収蔵し、日本を中心に広くアジア諸地域にわたる有形文化財の収集、保存、修復、展示、調査研究、教育普及などの事業を行っています。

当館は、日本随一の収蔵品を活かした展示に加え、季節の催しを実施することでより魅力ある総合文化展を目指しています。本年度より、外国人観光客及び国内の来館者の展示鑑賞機会の拡大を目的として、通年で金・土曜日に21時まで開館時間を延長し、夜間にご来館しても楽しんでいただける様々なイベントを実施していきます。

また、展示だけでなく、製作体験などを通して文化財に親しみ理解を深めながら鑑賞をサポートするスクールプログラム、ガイドツアーやワークショップなど様々なプログラムを多数ご用意しています。

東京国立博物館は、子どもから大人まで、そして当館を訪れる世界中の人々にご満足いただける博物館づくりに今後も力を入れてまいります。

## ■ 展示・公開

### ● 総合文化展

総合文化展は、当館の収蔵品、寄託品を展示するもので、当館の展示事業の中核を成すものです。年間370回程度の展示替を定期的に実施し、平成29年度は約7,200件の文化財を展示・公開する予定です。

各展示館ごとの特色は次のようになっています。

本 館：2階は縄文時代から江戸時代までの日本美術の流れをたどる時代別展示、1階は彫刻、陶磁、刀剣などのジャンル別展示で構成しています。

東 洋 館：中国、朝鮮半島、東南アジア、西域、インド、エジプトなどの美術と工芸、考古遺物を展示しています。

平 成 館：考古展示室（1階）では、土偶、銅鐸や埴輪をはじめとする旧石器時代から江戸時代までの考古遺物を展示し、企画展示室（1階）では特集や教育普及事業に関連した展示などを行っています。

法隆寺宝物館：奈良の法隆寺から皇室に献納された宝物300件余りを収蔵・展示しています。

表 慶 館：近年は特別展の展示会場として活用しています。

黒田記念館：日本近代画家の黒田清輝の遺言により竣工された建物です。黒田清輝の作品を展示・公開しています。

### ● 特集

総合文化展の一部として、特にテーマ性、企画性の高い内容で構成する特集を行っています（展示期間は予定です）。

- ・「東京国立博物館コレクションの保存と修理」（平成29年3月22日～4月16日）
- ・「平成28年度新収品展」（平成29年6月27日～7月17日）
- ・「親と子のギャラリー びょうぶとあそぶ」（平成29年7月4日～9月3日）
- ・「博物館でアジアの旅」マジカル・アジア（平成29年9月5日～10月15日）
- ・「室町時代のやまと絵—絵師と作品—」（平成29年10月24日～12月3日） ほか多数



夜間開館拡充の上野地区ポスター



特集「東京国立博物館コレクションの保存と修理」（平成29年3月22日～4月16日）リーフレット



特別展「茶の湯」（平成29年4月11日～6月4日）

## ●特別展

研究成果の公開の場として、またお客様の要望に応える場として、特別展を開催しています。以下は平成29年度に開催する展覧会です。

- ・特別展「茶の湯」（平成29年4月11日～6月4日）
- ・日タイ修好130周年記念特別展「タイ～仏の国の輝き～」(平成29年7月4日～8月27日)
- ・「フランス人間国宝展」(平成29年9月12日～11月26日)
- ・興福寺中金堂再建記念特別展「連慶」(平成29年9月26日～11月26日)
- ・特別展「仁和寺と御室派のみほとけ」(仮称)(平成30年1月16日～3月11日)
- ・アラビアの道一サウジアラビアの考古遺産(仮称)(平成30年1月23日～3月18日)

## ●海外展

- ・日タイ修好130周年記念海外展「日本美術のあゆみ—信仰とくらしの造形—」：バンコク国立博物館（タイ）(平成29年12月～平成30年2月（予定）)
- ・国立博物館合同企画特別展「トラ」(仮称)：韓国国立中央博物館（韓国）(平成30年1月26日～3月18日)

## ■文化財の収集・保管・修理

日本を中心とするアジア諸地域の文化財の体系的な陳列を目指し、購入・寄託・寄贈によって、文化財の収集に努めています。年月を経て劣化した文化財を将来にわたって安全に公開できるように、展示室や収蔵庫の環境改善、展示・輸送方法の改良、文化財の状態診断、年間約90件の本格修理や年間約500件の応急（対症）修理を実践しています。

## ■教育普及

来館者にとってのよりよい博物館体験の創出を目指して、多くの人々が博物館に親しみを感じられる機会の提供と、日本と東洋の文化の理解を深めるための手助けを行います。学校等との連携やボランティア活動の支援を行うとともに、先導的な事業のモデル化を図り、わが国の中核の博物館にふさわしい教育普及活動を実施します。

- 学習機会の提供
  - 講演会、ギャラリートーク、ワークショップ、保存修復バックヤードツアー、展示関連イベント
- 教育普及的展示
  - 親と子のギャラリー
- 学校との連携
  - スクールプログラム（鑑賞支援・職場体験・盲学校対応）
  - 教員研修（特別展、総合文化展を対象として）
- 大学との連携
  - キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ学生の受入
- ボランティア活動
  - 各種教育普及および保存修復事業の補助、館内案内、ガイドツアー等



キッズデー「トーハク劇場へようこそ！」  
(平成28年8月15日)



本館19室 触知図の様子



光学的手法による共同研究の調査風景

## ■調査研究

日本を中心に広くアジア諸地域にわたる文化財について計画的な調査研究を実施し、文化財の収集・保存・展示活動に反映しています。調査研究には科学研究費補助金や文化活動の助成金も活用しています。

平成29年度の研究テーマの一部を紹介します。

- ・東京国立博物館所蔵仏教美術作品の光学的手法による共同研究
- ・「チベットの仏教と密教の世界」ほか特集に関連する調査研究
- ・ICTを利用した博物館見学ガイドの開発に関する調査研究
- ・特別調査「法隆寺献納宝物」「書跡」「工芸」「彫刻」「絵画」

## 沿革

明治5年(1872)	旧湯島聖堂の大成殿で開催された日本初の博覧会を機に、「文部省博物館」として発足
明治8年(1875)	内務省所管となる。陳列区分は天産、農業山林、工芸器械、芸術、史伝、教育、法教、陸海部の8部門
明治15年(1882)	上野寛永寺本坊跡の現在地に移転
明治22年(1889)	宮内省所管の「帝国博物館」となる
明治33年(1900)	「東京帝室博物館」と改称
明治42年(1909)	表慶館が開館
大正12年(1923)	関東大震災により、旧本館が損壊
大正14年(1925)	天産部の列品を文部省の東京博物館(現在の国立科学博物館)などに移管
昭和13年(1938)	現在の本館が開館
昭和22年(1947)	文部省に移管「国立博物館」と改称
昭和27年(1952)	「東京国立博物館」と改称
昭和39年(1964)	法隆寺宝物館(旧館)が開館
昭和43年(1968)	文化庁の発足により同庁に移管。東洋館が開館
昭和59年(1984)	資料館が開館
平成11年(1999)	法隆寺宝物館が開館、つづいて平成館が開館
平成13年(2001)	独立行政法人国立博物館東京国立博物館となる
平成19年(2007)	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館となる

## 施設概要

施設概要 (m <sup>2</sup> )			
土地面積	120,270 (黒田記念館、柳瀬荘含む)		
建 物	建築面積	22,438	延 面 積 72,222
	展示館	展示面積 計	18,199
		収蔵庫面積 計	7,836
本 館	建築面積	6,602	延 面 積 22,416
	展示面積	6,573	収蔵庫面積 4,028
東 洋 館	建築面積	2,892	延 面 積 12,531
	展示面積	4,250	収蔵庫面積 1,373
平 成 館	建築面積	5,542	延 面 積 19,406
	展示面積	4,471	収蔵庫面積 2,119
法隆寺宝物館	建築面積	1,935	延 面 積 4,031
	展示面積	1,462	収蔵庫面積 291
表 慶 館	建築面積	1,130	延 面 積 2,077
	展示面積	1,179	収蔵庫面積 0
黒田記念館	建築面積	724	延 面 積 1,996
	展示面積	264	収蔵庫面積 25
そ の 他	建築面積	3,613	延 面 積 9,765



# 京都国立博物館

京都に都が置かれた平安時代から江戸時代の京都文化を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



京都国立博物館長  
佐々木 丞平

京都は平安遷都以降、明治維新に至るまで、天皇をいただく皇都であり続けました。この1000年の永きにわたり栄えた都としての文化は文字通り日本文化の本流そのものでもありました。

京都国立博物館はこの京都の伝統文化の証としての様々な文化財を中心とし、日本の伝統文化を世界に発信すべく活動を続けてまいりました。今後も「日本の伝統文化を世界へ」を大きな目標とし続けていきたいと思ひます。そのためにはあらゆる人々に関心を持っていただき、博物館に足を運んで頂かなければなりません。私共は「人に優しい博物館」であると同時に「地域に根ざした博物館」を目指します。教育の場であつたり、癒しの空間であつたり、生涯学習の場であつたり、更には国内外からの観光の起点でもありたいと思ひます。平成26年9月には「平成知新館」がリニューアルオープンいたしました。この新しい設備と機能を備えた新館【平成知新館】を、最大限に活用して、皆様に愛される京都国立博物館を目指したいと思ひます。

また、本年（2017年）は京都国立博物館開館120周年記念の年にあたります。今まで文化財を守り伝えてきた博物館の役割を改めて認識し直し、その原点に立ち返って様々な活動をより積極的に推進して行きたいと思っております。

## ■ 展示・公開

### ● 名品ギャラリー

平成26年9月にオープンした「平成知新館」名品ギャラリーでは、陶磁・考古・絵画・工芸・彫刻といった分野ごとに展示室が設けられており、さまざまなテーマのもと、館蔵品・寄託品をあわせ約1万3千件の収蔵品の中から選ばれた作品が展示されており、京文化の神髄が楽しめいただけます。随時展示替が行われており、足を運ぶたび新しい作品との出会いがあります。

### ● 特別展

- ・開館120周年記念特別展覧会「海北友松」（平成29年4月11日～5月21日）
- ・開館120周年記念特別展覧会「国宝」（平成29年10月3日～11月26日）



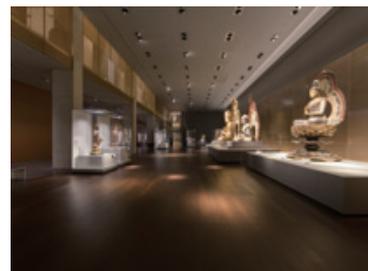
平成知新館



特別展覧会  
「禅一心をかたちへ」  
(平成28年4月12日～5月22日)



特別展覧会  
「没後150年 坂本龍馬」  
(平成28年10月15日～11月27日)



名品ギャラリー

## ■ 文化財の収集・保管・修理

京都国立博物館では設立以来、社寺に伝承してきた名宝の寄託を多数受けています。また、京都文化に関する美術・考古資料をはじめとする文化財の購入及び寄贈によって、収蔵品は年々増加しています。

こうした文化財を後世に伝えるためには、適切な修理や保存処置を施す必要があります。昭和55年には日本で最初の総合的文化財修理専用施設として、文化財保存修理所が業務を開始しました。



文化財保存修理所

## ■教育普及

展覧会および展示作品への理解を深め、文化財への関心を高めるために、展覧会・ウェブサイト・教育現場などを通じてさまざまな事業を行っています。

- 展覧会内容および展示作品の理解を深めるための活動
  - ・「土曜講座」「記念講演会」などの講演会、京博ナビゲーターによる体験ブース「ミュージアム・カート」の運営、各種ワークショップの実施、鑑賞ガイドやワークシート、博物館ディクショナリー等の配布。
- 文化財への関心を高めるための活動
  - ・夏期講座・シンポジウムなどの講演会、高精細デジタル複製美術品を用いた文化財ソムリエによる京都市内小中学校への訪問授業（文化財に親しむ授業）、館外でのワークショップの開催
- 教育機関との連携・協力活動
  - ・キャンパス・メンバーズ制度、京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座担当、文化財ソムリエの育成、訪問授業、教員に向けた研修会の実施
- ボランティア活動の支援
  - ・京博ナビゲーターや文化財ソムリエの運営・育成



「スタンプでうちわをデザインしよう！」  
ミュージアムキッズ！全国フェア(仙台)  
(平成28年6月25日、26日)



京博ナビゲーターによるワークショップ  
「くじで出会う 禅のことば」  
(平成28年度)

## ■調査研究

当館では学芸部研究員を中心に京都市を中心とした近畿地方の古社寺の文化財悉皆調査を昭和54年度から実施しています。その一環として平成28年度から4年にわたって科学研究費補助金による助成を受け「河内地域の仏教文化と歴史に関する総合的研究」というテーマのもと、大阪・河内地域に所在する社寺の文化財を中心に調査を行っています。さらに大阪府貝塚市の個人宅においてご所蔵の近世～近代の書画工芸作品の調査を継続的におこなっています。その作品の約半数は博物館に寄贈をされており、平成29年度には特別企画として平成知新館にて一般に公開する予定です。その他、館蔵の文化財等についての調査研究を継続しており、展示に反映させたり研究紀要「学叢」にその成果を掲載しています。



科研による金剛寺(河内長野市)の調査風景

## ■その他の活動

### ○京都・らくご博物館

親しまれる博物館づくりの一環として、わが国の伝統文化であり、京都が発祥の地である落語を「京都・らくご博物館」と題して、年4回季節に応じた演目で上演しています。



京都・らくご博物館(春)

### 沿革

- 明治22年(1889) 宮内省所管「帝国京都博物館」として設置
- 明治30年(1897) 開館
- 明治33年(1900) 「京都帝室博物館」と改称
- 大正13年(1924) 京都市に下賜し、「恩賜京都博物館」と改称
- 昭和27年(1952) 恩賜京都博物館を国に移管し、文化財保護委員会の附属機関として「国立博物館」と改称
- 昭和41年(1966) 平常展示館が開館
- 昭和43年(1968) 文化庁の附属機関となる
- 昭和44年(1969) 特別展示館、表門、同礼売場、袖塚が「日帝国京都博物館」として重要文化財に指定される
- 昭和48年(1973) 第1回土曜講座開講
- 昭和55年(1980) 文化財保存修理所業務開始
- 平成13年(2001) 百年記念館(仮称)新築事業の一環として南門が竣工
- 平成13年(2001) 独立行政法人国立博物館 京都国立博物館となる
- 平成19年(2007) 独立行政法人国立文化財機構 京都国立博物館となる
- 平成21年(2009) 新展示館「平成知新館」建替え工事を開始する
- 平成25年(2013) 「平成知新館」竣工(8月)
- 平成26年(2014) 「平成知新館」開館(9月)

### 施設概要

				(m <sup>2</sup> )
土地面積				53,182
建 物	建築面積	延 面 積		31,828
展 示 館	展示面積 計		5,657	
	収蔵庫面積 計		5,421	
明治古都館	建築面積	延 面 積	3,015	
	展示面積	収蔵庫面積	803	
平成知新館	建築面積	延 面 積	17,997	
	展示面積	収蔵庫面積	2,710	
旧管理棟	建築面積	延 面 積	1,954	
資 料 棟	建築面積	延 面 積	1,125	
文化財保存修理所	建築面積	延 面 積	2,856	
技術資料参考館	建築面積	延 面 積	304	
東収蔵庫	建築面積	延 面 積	1,996	
		収蔵庫面積	1,412	
北収蔵庫	建築面積	延 面 積	682	
		収蔵庫面積	496	
そ の 他	建築面積	延 面 積	1,899	



# 奈良国立博物館

仏教美術及び奈良を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています



奈良国立博物館長  
松本 伸之

奈良国立博物館は、明治28年（1895）の開館以来、南都諸社寺の御協力をいただきながら、仏教美術を中心とした文化財の収集・保管・調査研究や教育普及活動を行い、神と仏が融合した我が国の仏教文化のもつ優れた芸術性やその背景にある歴史について紹介してまいりました。今後は、こうした当館の特色を基盤に、様々な文化財と奈良のもつ歴史・文化的景観の有機的な連携を念頭に、新たな奈良文化の発信の拠点として、国際化や情報化への一層の充実に努め、広く国民の皆様にご覧いただける博物館を目指します。

## ■展示・公開

### ●仏教美術の展示

当館では、特別展や特別陳列以外にも、国宝・重要文化財を多数含む選りすぐりの仏教美術の名品を公開しています。なら仏像館では、名品展「珠玉の仏たち」と題し、主として飛鳥から鎌倉時代にいたる日本の彫刻史を代表する優れた仏像の数々を、渡り廊下でつながれた青銅器館では、中国古代の青銅器の逸品を展示しています。また、西新館では、名品展「珠玉の仏教美術」と題し、絵画・工芸・書跡・考古の各ジャンルにわたる日本仏教美術の粋ともいべき作品群をご覧いただけます。さらに、随時、ジャンルの枠にとらわれない特集展示なども開催しています。

### ●特別陳列

各分野で行う中規模のテーマ展示です。

- ・おん祭と春日信仰の美術（平成29年12月9日～平成30年1月14日）
- ・お水取り（平成30年2月6日～3月14日）
- ・修理完成記念 特別陳列 薬師寺の名画 —長沢蘆雪筆旧福寿院障壁画と板絵神像—（仮称）（平成30年2月6日～3月14日）

### ●特別展

- ・特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」（平成29年4月8日～6月4日）
- ・1000年忌特別展「源信 地獄・極楽への扉」（平成29年7月15日～9月3日）
- ・第69回正倉院展（平成29年10月下旬～11月上旬）（予定）



特別展「国宝 信貴山縁起絵巻—朝護孫子寺と毘沙門天王信仰の至宝—」  
平成28年4月9日～5月22日



生誕800年記念特別展「忍性—救済に捧げた生涯—」  
平成28年7月23日～9月19日



第68回正倉院展  
平成28年10月22日～11月7日

## ■文化財の収集・保管・修理

貴重な国民の財産である有形文化財を守るため、購入・寄贈・寄託により、有形文化財の収集に努力しています。

展示室や収蔵庫においては、常時適切な温湿度管理を実施し、収集した文化財の保存環境にも細心の注意を払っています。

また、我が国に伝わる文化財は紙、木など脆弱な材質のものが多く、これらを後世にいかにか長く伝えるかが大きなテーマになっています。当館では平成14年に文化財保存修理所を設置し、文化財の計画的修理を実施しています。

## ■教育普及

文化財に対する理解を深めるため、様々な教育普及活動に力を入れています。

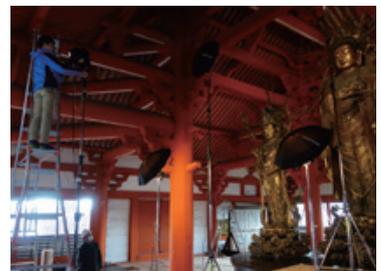
- ①文化財に関する情報資料の収集と公開
- ②児童・生徒を対象とした事業  
主に小学生を対象とした世界遺産学習、教員向け講座
- ③講演会・講座等の実施  
公開講座、サンデートーク、夏季講座、正倉院学術シンポジウム、国際研究集会
- ④大学等との連携  
キャンパスメンバーズ制度、インターンシップ学生の受入れ、奈良女子大学及び神戸大学との連携講座
- ⑤ボランティア活動の充実



ボランティア活動風景



夏季講座「律宗の歴史と美術—鑑真から忍性へ」会場風景



特別展「快慶」に向けた調査及び撮影風景



施設の有効活用として会場を提供した「フェラーリ・カヴァルケード・インターナショナル2016」

## ■調査研究

文化財に関する調査研究は、研究機関である奈良国立博物館の根幹を支える最も重要な活動です。その成果は名品展や特別展に反映され、展示活動の充実に資するとともに、これまで蓄積された学術情報資料は仏教美術資料研究センターで広く公開しています。当館では、平成29年度も以下のテーマで調査研究を行い、着実な成果をあげてまいります。

- ①収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究
- ②復元模写制作に伴う仏教絵画の調査研究
- ③古代の写経と聖教に関する基礎的研究
- ④仏教工芸・上代工芸の総合的調査
- ⑤墳墓出土品の調査研究
- ⑥南都の古代・中世の彫刻に関する調査研究
- ⑦東京文化財研究所との共同による仏教美術の光学的調査研究
- ⑧特集展示に関連する調査研究
- ⑨特別展等の開催に伴う調査研究
- ⑩歴史・伝統文化の教育普及に資するための調査研究
- ⑪収蔵庫・展示室・ケース内部等における環境が文化財に与える影響などに関する調査研究
- ⑫文化財修理の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
- ⑬保存科学の観点からの収蔵品・寄託品等の調査研究
- ⑭文化財アーカイブズの形成に関する理論的・実践的研究

### 沿革

明治22年(1889)	宮内省所管の「帝国奈良博物館」として設置
明治28年(1895)	開館(4月29日)
明治33年(1900)	奈良帝室博物館と改称
大正3年(1914)	正倉院掛が置かれる
昭和22年(1947)	宮内省より文部省に移管される
昭和25年(1950)	文化財保護委員会附属機関となる
昭和27年(1952)	奈良国立博物館と改称
昭和43年(1968)	文化庁の附属機関となる
昭和48年(1973)	陳列館新館(西新館)開館
昭和55年(1980)	仏教美術資料研究センター設置
平成7年(1995)	開館百周年記念式典挙行
平成10年(1998)	第2新館(東新館)開館
平成13年(2001)	独立行政法人国立博物館 奈良国立博物館となる
平成14年(2002)	文化財保存修理所開所 本館附属棟を中国古代青銅器の展示室とする(現在の青銅器館)
平成19年(2007)	独立行政法人国立文化財機構 奈良国立博物館となる
平成22年(2010)	本館を「なら仏像館」と改称
平成28年(2016)	なら仏像館リニューアルオープン(4月29日)

### 施設概要

		(m <sup>2</sup> )	
土地面積			78,760
建 物	建築物	建築面積	6,769 延面積 19,116
	展示館	展示面積 計	4,079
		収蔵庫面積 計	1,558
なら仏像館	建築面積	1,512 延面積	1,512
	展示面積	1,261	
青銅器館	建築面積	341 延面積	664
	展示面積	470	
東新館	建築面積	1,825 延面積	6,389
	展示面積	875 収蔵庫面積	1,394
西新館	建築面積	1,649 延面積	5,396
	展示面積	1,473	
仏教美術資料研究センター	建築面積	718 延面積	718
文化財保存修理所	建築面積	319 延面積	1,036
地下回廊		延面積	2,152 収蔵庫面積 164
	その他	建築面積	405 延面積 1,249

日本とアジア諸地域との文化交流を中心とした文化財について、収集、保存、管理、展示、調査研究、教育普及事業等を行っています。



九州国立博物館長  
島谷 弘幸

九州は日本列島の西端に位置していますが、大陸に近いことから、古くから人とモノの行き来が盛んに行われてきました。この地には古代に外国使節を受け入れた大宰府政府が置かれています。そうした歴史的背景や九州の人々の熱望を踏まえて、平成17年に、日本文化の成立をアジア諸地域との関わりで捉えることをコンセプトにした国立博物館が、この福岡県太宰府市に誕生しました。

当館は、これまでに1,400万人を超える多くの来館者をお迎えしています。近年は中国や韓国、ベトナム、タイからのお客が多いのも特色のひとつです。これからも、アジアの文化の相互理解を深める博物館となるために、さまざまな研究や活動を展開し、地域の方々にも開かれた博物館として歩み続けていきたいと思えます。

## ■展示・公開

### ●文化交流展（平常展）

文化交流展示室では、展示テーマを決めて期間限定で行う特別展示（旧称：トピック展示）を開催し、いつでも新しい展示品に出会える場を皆様にお届けしています。更に、映像や実際に触れることができる展示により、迫力だけでなく臨場感に溢れる展示を行っています。

### ●特別展示（特集陳列）

平成29年度実施予定の主な特別展示は次のとおりです。

- ・「水の中からよみがえる歴史－水中考古学最前線－」（平成29年7月15日～9月10日）
- ・「対馬－遺宝にみる交流の足跡－」（平成29年8月8日～9月18日）
- ・「神と仏と鬼の郷－国東宇佐 六郷満山展」（平成29年9月13日～11月5日）
- ・「白隠さんと仙厓さん」（平成30年1月1日～2月12日）
- ・「災害に学ぶ・備える～熊本地震と文化財レスキュー～」（平成30年3月13日～5月6日）
- ・新春特別公開「徳川美術館所蔵 国宝 初音の調度」（平成30年1月1日～28日）

### ●特別展

特別展は、初めての方でも十分楽しめる、よく知っている方は、更に楽しめる、そんな展覧会を目指して企画・展示を行っています。平成29年度実施予定の特別展は次のとおりです。

- ・「タイ～仏の国の輝き～」（平成29年4月11日～6月4日）
- ・「世界遺産 ラスコー展 クロマニヨン人が見た世界」（平成29年7月11日～9月3日）
- ・「新・桃山展－大航海時代の日本美術」（平成29年10月14日～11月26日）
- ・「王羲之と日本の書」（平成30年2月10日～4月8日）

## ■文化財の収集・保管・修理

### ●収集

日本とアジア諸国との文化交流と日本文化の成り立ちを分かりやすく展示するための文化財（美術・工芸・考古・歴史及び民族資料等）を重点的に収集しています。また、展示の一層の充実を図るために、社寺や個人に対し、積極的に寄贈や寄託を働きかけています。

### ●保管

貴重な文化財を保存・管理する「収蔵庫」は、直接外気と接しないよう中間に空気層を設けた二重構造にするとともに、温湿度変化がより少ない建物の中心に配置しています。また、その空調設備は恒温恒湿仕様の空調機を採用し、庫内温湿度をほぼ一定に維持しています。さらに、内装材料は地元九州各地から調達した杉板と調湿材を壁や天井に使用することで、空調設備のみに頼らない湿度環境を保っています。

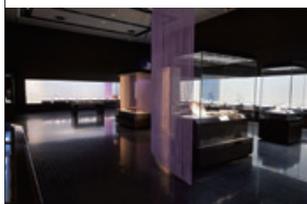
当館は地震時の文化財の転倒などによる破損を防ぐために免震建物になっています。建物へ地震の揺れが直に伝わるのを防ぐことで、貴重な文化財を地震から守ることができます。

### ●修理

6つの文化財保存修復施設（補修紙作成等、古文書・書跡・典籍、絵画、彫刻、考古、漆工）では、伝統的技術と人文科学および科学技術を融合した保存修理を実施しています。実際に修理を行っているのは、国指定文化財の修理実績がある技術者で、歴史、美術、工芸、考古などの各専門分野の研究者と、それぞれの専門的立場から意見を出し合いながら保存修理を進めています。また、最先端の成分分析装置や精密計測技術（蛍光X線分析装置・X線CT装置等）によって、修理対象文化財の科学的調査にも取り組んでいます。



文化交流展（平常展）



トピック展示「古伊万里－旧家の暮らしを彩った器」  
平成28年9月14日～11月6日



特別展「タイ～仏の国の輝き～」  
平成29年4月11日～6月4日

## ■教育普及・交流活動

### ●教育普及活動

#### ①体験型展示室「あじっば」での活動

日本と交流のあった諸地域の生活文化を比較体験する体験型展示室で、教育キットの開発や教育機関と連携したプログラムの開発及び一般来館者が博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発等を行っています。

#### ②文化交流展・特別展関連プログラム等の開発・実施

- ・展示理解プログラムの開発・実施
- ・ワークショップの実施
- ・ガイドブックの制作

#### ③学校用教育キット「きゅうぱっく」の貸出

#### ④大学等との連携を強めるキャンパスメンバーズ制度の実施

#### ⑤「きゅうはくの絵本」を通じた教育普及活動

#### ⑥ボランティア活動の支援

展示解説・教育普及・館内案内(バックヤードツアーを含む)・環境・イベント活動・資料整理などのボランティア活動を支援しています。

### ●交流活動

#### ①近隣地域をはじめ、企業等と連携した交流事業の実施や施設の有効活用を図るなど利用サービスの向上に努めています。

#### ②アジアを中心とした博物館交流の推進

・韓国の国立扶餘博物館・国立公州博物館・国立韓国伝統文化大学校、中国の南京博物院・内蒙古博物院・中国文物交流中心・成都博物院・瀋陽故宮博物院、ベトナム国立歴史博物館、タイ文化省芸術局と学術文化交流協定を締結し、相互交流を推進しています。

#### ③国際シンポジウム、講演会の開催

- ・宗像・沖ノ島と大和朝廷「神宿る島と祈りの記憶－祭祀遺跡の発掘調査譚－」(平成29年1月21日)
- ・日米文化教育交流会議(カルコン)美術対話委員会シンポジウム「世界と日本美術～2000年以降の動向を中心に～」(平成28年12月6日)
- ・日中韓文化遺産フォーラム「水中文化遺産の保護と活用」(平成29年2月12日)



ボランティア活動：九博子どもフェスタ

## ■調査研究

当館のコンセプトである「日本とアジア諸国との文化交流」に関する調査研究や文化財の保存・修復のための科学的調査研究を実施することにより、その研究成果を文化財の収集・保管・展示に反映させています。また、これらの研究には(独)日本学術振興会による科学研究費助成事業等も活用しています。

- ・X線CTスキャナ等による青銅器・彫刻・漆工などの文化財の構造技法解析に関する調査研究
- ・水中遺跡の保存活用に関する調査研究
- ・「神と仏と鬼の郷－国東宇佐 六郷満山展」ほか特別展示、特別公開に関連する調査研究
- ・特別展のテーマに則した解説パネル・冊子・ワークショップ等、観覧者の理解促進のための教育普及プログラムに関する調査研究
- ・博物館における文化財保存修復に関する研究
- ・博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究
- ・災害時における文化財レスキュー等の実証的調査研究



高精細大型平面スキャナを使った「唐船・南蛮船図屏風」の調査研究

## ■刊行物

当館の活動を広く理解してもらうために様々な刊行物を出版しています。

#### i) 研究紀要「東風西声」

一九州国立博物館の調査研究成果を冊子にしたもの(年1回発行)

#### ii) 文化交流展示ビジュアルガイドブック「Asiage(アジアージュ)」

一文化交流展示(平常展示)を分かりやすく紹介したガイドブック

#### iii) 季刊情報誌「アジアージュ」

一各展覧会の紹介を中心とした広報誌(年4回発行)

#### iv) 「きゅうはくの絵本」

子どもたちに日本の歴史・文化を分かりやすく、親しみをもって理解してもらうために当館独自の絵本を制作しています。

### 沿革

平成6年(1994)	文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」(以下、「委員会」という。)を設置
平成8年(1996)	文化庁が新構想博物館を九州国立博物館とし、その設置候補地が福岡県太宰府市に決定
平成9年(1997)	同委員会が「九州国立博物館 基本構想」を取りまとめ
平成11年(1999)	委員会が「九州国立博物館 基本計画」を策定
平成12年(2000)	文化庁、福岡県及び財団法人九州国立博物館設置促進財団(以下「財団」という。)が共同で「建築基本設計」を完了
平成13年(2001)	文化庁と福岡県が共同で設置した「九州国立博物館(仮称)設立準備専門家会議」が「常設展示計画」を策定
平成14年(2002)	文化庁、福岡県及び財団が共同で「展示基本設計」を完了
平成15年(2003)	文化庁、福岡県及び財団が「九州国立博物館(以下「国立博物館」という。)が「九州国立博物館設立準備室」を設置
平成16年(2004)	文化庁、福岡県及び財団が「建設工事(3年計画の第一次)」に着手
平成17年(2005)	国立博物館及び福岡県で「展示工事(2年計画の第一次)」に着手
平成18年(2006)	文化庁、福岡県及び財団が「建設工事」を完了(建物が完成)
平成19年(2007)	文化庁、国立博物館及び福岡県が正式名称を「九州国立博物館」と発表
平成20年(2008)	国立博物館及び福岡県が「展示工事(2年計画の第二次)」を完了

国立博物館が九州国立博物館を設置
10月16日 一般公開開始
平成19年(2007)
平成20年(2008)
平成24年(2012)
平成27年(2015)
独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館となる
九州国立博物館で日中韓首脳会議を開催
来館者1,000万人達成
開館10周年

### 施設概要

		(m <sup>2</sup> )	
土地面積	法人	10,798	166,477
	県		155,679
建 物	建築面積		14,623
	延 面 積		30,675
	法人	9,300	15,595
展示・収蔵面積	展示面積 計		5,444
	法人	3,844	1,375
	県		225
	収蔵庫面積 計		4,518
	法人	2,744	1,335
県		439	

\*土地・建物は福岡県と法人が共有しています。



# 東京文化財研究所



東京文化財研究所長  
亀井 伸雄

東京文化財研究所は、国の文化財行政を支える役割を果たすべく、有形・無形の様々な文化財全般について基礎的・体系的・先端的・実践的な調査研究を進めています。得られた成果等については、これを積極的に公表するとともに、地方公共団体等への文化財保護に関する指導・助言を行い、さらには、アジアを中心とする諸外国における文化財の保護に関して、人材育成や保存修復技術の移転といった国際協力事業を実施しています。

当面の重点課題としては、多年にわたり当研究所に蓄積されてきた各種の調査研究成果や基礎資料等アーカイブ構築を図るとともに、保存修復の分野においては、博物館資料の保存・修復・公開等に関する調査研究も視野に入れた国立文化財機構全体としての一体的な役割の推進、さらに、無形の文化財に関しては、芸能や伝統的な技術を中心に全国的な基礎資料の収集と公開などに力点を置いて調査研究を行っています。

このほか、海外の文化遺産の保護に関し、わが国としての一体的・効果的な国際貢献を推進するための拠点組織である「文化遺産国際協力コンソーシアム」の事務局が当研究所内に置かれています。

## ■研究組織

### ●文化財情報資料部

文化財情報資料部は、文化財研究のためのアーカイブの拡充を図ることを目指して、文化財に関する資料の収集・蓄積・整理・公開、及び効果的な情報発信方法の研究を進めています。同時に、文化財学や美術史研究等の今日的な課題にも取り組み、新しい資料学の確立を目指しています。あわせてこれらの成果を基にしながら、研究所全体の情報システムの管理や広報活動を担っています。

### ●無形文化遺産部

無形文化遺産部は、無形文化財、無形民俗文化財及び文化財保存技術という日本の無形の文化財を中心に、無形文化遺産全般を対象として、その保存継承に役立つような基礎的な調査研究を実施しています。また無形文化遺産の重要な保護手法である音声・映像による記録については、その作成の実施とともに新たな手法開発についての研究を行っています。

### ●保存科学研究センター

保存科学研究センターは、文化財の保存のために文化財の材料・構造・技法を調査し、文化財により適した保管・展示環境を研究しています。新しい調査法導入も視野に活動しています。また文化財の修復のために修復材料・技法の改良と、維持管理手法の開発を行っています。これらの調査研究は文化財の所蔵者や保存修復現場の方々と密接に協力しながら進めています。

### ●文化遺産国際協力センター

文化遺産国際協力センターは、アジア諸国をはじめとする世界各地での人材養成・技術移転を含む保存修復事業への協力、研究会の開催などによる国内外の機関との連携の推進、諸外国の文化遺産や保護制度に関する情報の収集・発信を行っています。また文化遺産国際協力コンソーシアム事務局を受託運営しています。



公開研究会「南蛮漆器の多源性を探る」



「関白流小林獅子舞（栃木県日光市）」



研究成果を生かした材料で修復される厳島神社大鳥居修理



煉瓦造建造物の保存修復材料に関する調査（ミャンマー・バガン）

## ■研修・助言・指導

東京文化財研究所では文化財の保護とその活用を目指し、例えば平成28年7月11日～22日に行われた「博物館・美術館等保存担当学芸員研修」、平成28年11月9日～25日に行われた国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」等の研修の他「無形文化遺産保護に対する助言・指導」「博物館・美術館等の環境調査と援助・助言」「文化財の修復及び整備に関する調査・助言」など、さまざまな研修・助言・指導を行っています。



国際研修「ラテンアメリカにおける紙の保存と修復」



博物館・美術館等保存担当学芸員研修



第50回オープンレクチャーの案内

## ■大学院教育・公開講座

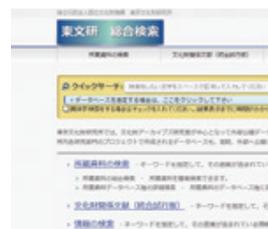
東京文化財研究所では次世代の人材育成や研究成果の社会的還元を旨とし、大学院教育や公開講座を行っています。

大学院教育は、平成7年より東京藝術大学と連携し、システム保存学コースを開設しています。

また公開講座は、文化財情報資料部と無形文化遺産部がそれぞれ毎年開催しています。

## ■情報発信

東京文化財研究所では調査研究、国際協力など、さまざまな活動の成果を積極的に発信・公開する取り組みを進めています。また『年報』『概要』『東文研ニュース』などの広報誌を刊行するとともに、ホームページの充実に努めています。



東京文化財研究所総合検索  
(<http://www.tobunken.go.jp/archives/>)

## ■刊行物

東京文化財研究所では定期刊行物として『美術研究』『日本美術年鑑』『無形文化遺産研究報告』『保存科学』を刊行しています。そのほか、さまざまな研究成果を公表しています。



美術研究



日本美術年鑑



無形文化遺産研究報告



保存科学

### 沿革

昭和5年(1930) 帝国美術院に附属美術研究所が設置される  
 昭和22年(1947) 国立博物館附属美術研究所となる  
 昭和25年(1950) 文化財保護委員会の附属機関となる  
 昭和27年(1952) 美術研究所は東京文化財研究所となる  
 昭和29年(1954) 東京文化財研究所は東京国立文化財研究所となる  
 昭和43年(1968) 文化庁の附属機関となる  
 平成12年(2000) 新館庁舎(新館)竣工・移転  
 平成13年(2001) 独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所となる  
 平成19年(2007) 独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所となる

### 施設概要

施設概要		(m <sup>2</sup> )
土地面積		4,181
建 物	建築面積	2,258
	延 面 積	10,516



# 奈良文化財研究所



奈良文化財研究所長  
(独立行政法人国立文化財  
機構理事長)  
松村 恵司

奈良文化財研究所は、貴重な文化財を実物に即して総合的に研究する組織で、平城宮跡や藤原宮跡の発掘調査をはじめ、建造物、古文書などの個々の文化財の調査研究、そして飛鳥保存のための調査研究と展示普及などを行っています。これらは、国内外の文化財研究、学術交流、国際支援にも大きく寄与し、中国や韓国の文化財研究所との恒常的な共同研究としても結実しています。また、新たな発掘技術と研究方法の開発、自治体専門職員への指導と研修なども行っています。遺跡の保護のために研究所が開発した保存、修復、整備の技術は、全国各地はもちろん世界の遺跡でも活かされています。これらの調査研究は、当研究所の特徴である異なった分野の学際的な共同研究によって支えられています。当研究所は、それらを最大限に活かし、文化財保存のための研究を一層充実してまいりたい所存です。

## ●企画調整部

企画調整部は、企画調整室、文化財情報研究室、国際遺跡研究室、展示企画室、写真室で構成されています。各研究室は、地方公共団体文化財担当職員等を対象とした専門研修の企画、情報システムの整備と各種データベースの公開、遺跡等に関する国際的な共同研究や協力、平城宮跡資料館等での研究成果の公開普及、写真の作成と新技術の開発などの業務を担っています。

## ●文化遺産部

文化遺産部は、歴史研究室、建造物研究室、景観研究室、遺跡整備研究室を置き、それぞれが、「書跡・典籍・古文書・歴史資料」、「歴史的建造物・伝統的建造物群」、「文化的景観」、「遺跡整備・庭園」について、専門的かつ総合的な調査研究を行っています。各研究室における多様な調査研究の成果は、文化財の指定・登録・選定やその後の保存と活用に関する方策など、国の文化財保護行政にも大きく資するものとなっています。また、地方公共団体の文化財行政に対しても、協力・助言等で貢献しています。

## ●都城発掘調査部

都城発掘調査部は考古第一・考古第二・考古第三・史料・遺構の各研究室で構成され、平城地区と飛鳥・藤原地区に所在する古代宮殿や寺院、墳墓などで行う発掘調査に基づいて、学際的な調査研究を推進しています。その成果については説明会や報告書、展示などで公開するとともに、遺跡の保存・活用に資する研究にも取り組んでいます。

### 【平城地区】

奈良時代（710～784）の天皇の宮殿と中央官庁があった特別史跡平城宮跡の発掘調査とそれに基づく研究を主に担当しています。昭和34年（1959）から計画的な調査を継続し、これまでに130haに及ぶ平城宮跡の3分の1以上の発掘を進めてきました。平城宮跡や寺院の遺跡等で発掘された建物等の遺構、ならびに木簡や木製品・土器・瓦等の遺物をもとに、文献とも照合した実証的な奈良時代研究は、高く評価されています。また、平城宮跡を国営公園として整備している国土交通省に対し、整備の基礎資料となる平城宮跡の研究成果を提供しています。

### 【飛鳥・藤原地区】

わが国の古代国家成立期である7世紀から8世紀初頭にかけて、政治・経済・文化の中心地であった飛鳥・藤原地域の発掘調査とそれに基づく研究を担当しています。飛鳥地域には、宮殿や豪族の居館、飛鳥寺等の寺院のほか、銭貨や硝子などの工芸品を製作した総合工房や漏刻（水時計）台、墳墓などの遺跡があり、その北方には、わが国最初の本格的都城である藤原京が方5km以上の範囲に広がっています。飛鳥・藤原地域の遺跡の発掘調査に基づく実証的・学際的な研究は、飛鳥時代の歴史の解明に大きく貢献しています。



平城宮跡資料館でのギャラリートーク



遺跡整備工事での指導



平城宮東院地区の発掘調査



藤原宮の幢幡遺構と復元幢幡

## ●埋蔵文化財センター

4室で構成される埋蔵文化財センターでは、各室が以下の研究を実施しています。保存修復科学研究室では、考古資料の材質や構造を解明して適切な保存修復等を行うため、分析法の開発と実用化に向けた研究を行っています。環境考古学研究室では、動植物遺存体による古環境の復元的研究を行っています。年代学研究室では、年輪年代学に関する基礎的研究を進めるとともに、その成果を考古学、建築史学等へ応用しています。遺跡・調査技術研究室では、遺跡の調査技術や計測・探査技術の研究・開発に加え、災害考古学の調査・研究にも取り組んでいます。



五塚原古墳（京都府向日市）でのレーザー探査

## ●飛鳥資料館

飛鳥資料館は、飛鳥の歴史を紹介するための展示施設として、昭和50年（1975）に開館しました。常設展示として宮都・石造物・古墳・寺院などのテーマ毎に出土品などを展示するとともに、保存処理を行った山田寺東回廊の出土部材を復元展示しています。年に2回、春と秋に開催している特別展では、飛鳥の歴史や出土文化財に焦点を当てた展示を行い、また夏と冬には、奈良文化財研究所の多様な研究成果をわかりやすく伝える企画展を開催しています。



飛鳥資料館

## ●国際学術交流

奈良文化財研究所で現在実施している国際交流・協力事業は、学術共同研究、研究員交流、技術研修、保存修復などであり、ユネスコ・アジア太平洋文化センター（ACCU）など他機関が行う国際協力事業にも協力しています。

独自事業としては、①中国社会科学院との北魏洛陽城の都城遺跡の共同調査、②中国河南省文物考古研究所との鞏義市黄冶・白河窯跡の共同調査、③中国遼寧省文物考古研究所との三燕文化出土遺物の共同調査、④韓国国立文化財研究所との都城の比較研究ならび発掘調査人材交流、⑤カンボジア・アンコール・シエムリアップ地域文化財保護管理機構（APSARA）と連携したアンコール遺跡群・西トップ遺跡の研究調査・保存事業と人材育成を行っています。また、文化庁から受託した拠点交流事業として、ミャンマー宗教・文化省考古・国立博物館局と共同で遺跡の発掘調査法・出土遺物の調査研究法に関する技術移転・人材育成事業を行っています。



アンコール西トップ遺跡保存事業

## ●刊行物

奈良文化財研究所では定期刊行物として『奈良文化財研究所紀要』『奈良文化財研究所概要』『奈文研ニュース』『埋蔵文化財ニュース』を刊行しています。そのほか、さまざまな研究成果を公表しています。

## 沿革

昭和27年(1952)	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室・美術工芸研究室・建造物研究室・歴史研究室）を奈良市春日野町50に設置
昭和29年(1954)	奈良国立文化財研究所と改称
昭和35年(1960)	奈良市佐紀東町の平城宮跡に発掘調査事務所を設置
昭和38年(1963)	平城宮跡発掘調査部を設置
昭和43年(1968)	文化庁が発足 その附属機関となる
昭和45年(1970)	平城宮跡資料館を開館
昭和48年(1973)	会計課・飛鳥藤原宮跡発掘調査部・飛鳥資料館（準備室）を設置
昭和49年(1974)	庶務部（庶務課・会計課）と埋蔵文化財センターを設置
昭和50年(1975)	奈良県高市郡明日香村奥山に飛鳥資料館を開館
昭和55年(1980)	美術工芸研究室を奈良国立博物館の仏教美術資料研究センターに移管
昭和55年(1980)	庁舎を奈良市二条町に移転 平城宮跡発掘調査部・埋蔵文化財センターを庁舎に移転統合
昭和63年(1988)	飛鳥藤原宮跡発掘調査部庁舎を橿原市木之本町94-1に新営
平成13年(2001)	独立行政法人文化財研究所 奈良文化財研究所となる
平成19年(2007)	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所となる
平成25年(2013)	本庁舎地区再開発計画に伴い、奈良市佐紀町247-1の仮設庁舎に移転

## 施設概要

	土地	建物	
		建築面積 延面積	現在、建替中
本館地区	8,860		
平城宮跡資料館地区	(文化庁所属の国有地を無償使用)	建築面積 延面積	13,328 21,395
都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区）	20,515	建築面積 延面積	6,016 9,477
飛鳥資料館地区	17,093	建築面積 延面積	2,657 4,404

# アジア太平洋無形文化遺産研究センター(IRCI)

## International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region



アジア太平洋無形文化遺産研究センター所長  
岩本 渉

アジア太平洋無形文化遺産研究センター (IRCI) は、平成21年10月の国際連合教育科学文化機関 (ユネスコ) 総会にて「ユネスコが賛助するアジア太平洋地域における無形文化遺産のための国際協力センターの設置承認」を受け、翌年8月に締結された日本政府とユネスコ間の協定に基づき、平成23年堺市に開所したユネスコカテゴリー2センター (ユネスコと協力してプログラムを実行する機関) です。

IRCIでは主にユネスコの「無形文化遺産の保護に関する条約」の方針に沿って、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護に向けた調査研究に従事する研究者や研究機関を支援し、当該分野における研究の充実を使命とする国際拠点として活動しています。昨今、世界各地で様々な理由により危機に瀕している無形文化遺産が少なくありません。当センターは、日本及びアジア太平洋地域の大学、研究機関等と協力しつつ、無形文化遺産の保護に関する実践及び方法について調査研究を推進しています。

### ■平成28年度の活動内容

IRCIでは、アジア太平洋地域における無形文化遺産保護のための調査研究拠点として、次のような行動計画に沿って調査研究を推進するとともに、国際的動向の情報収集や我が国の知見を活用した無形文化遺産保護の充実につとめています。

1. 無形文化遺産保護に向けた研究の活性化
2. 危機に瀕する無形文化遺産保護と災害等に関する調査研究
3. 堺市との協力による無形文化遺産に関する普及啓発活動

上記行動計画に基づき、平成28年度は次のような活動を行いました。

#### ●行動計画1 (無形文化遺産保護に向けた研究の活性化)

1. 国際専門家会合「無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング」  
アジア太平洋地域における無形文化遺産保護研究の現状と課題について、14カ国から専門家を招いて討議を行いました (サンスクエア堺 平成28年11月18日～19日)。
2. 文献調査  
現地の研究機関等と協力し、11カ国について文献調査を実施しました。現在、前年度と併せて24カ国を網羅しており、現地機関の協力を得ることで、現地語で書かれた文献やレポート等についての情報が得られています。
3. 研究データベース [Research Database on ICH Safeguarding in the Asia-Pacific Region]  
これまで収集してきた研究者・研究機関についての情報を整理し、平成26年9月25日より検索可能な研究データベースとして、IRCIウェブサイトで公開をしています。現在約2,000件のデータを収録しています (<http://www.irci.jp/ichdb/>)。



国際専門家会合「無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング」  
(平成28年11月 大阪府堺市)



無形文化遺産に関する法制度研究ワークショップ  
(平成28年12月 ベトナム)

#### ●行動計画2 (危機に瀕する無形文化遺産保護と災害等に関する調査研究)

1. 大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究  
無形文化遺産の保護に関する国内法が整備されていない国が多く、こうした国々からの協力要請に応えること、そして無形文化遺産の保護に向けた法的・政策的な枠組みを強化することを目的としています。九州大学大学院法学研究院と協力し、カンボジア、ラオス、ミャンマーを中心にメコン圏5カ国から研究者と法整備担当行政官を招き、ワークショップを開催し、法整備の最新状況の把握と課題の分析を行った後、法整備を行う国々の参考に資するマニュアル型のツールキットを作成しました (ベトナム文化芸術研究院 平成28年12月17日～19日)。将来的には、英語のみならず、各国の協力のもと、ベトナム語、クメール語、ミャンマー語、タイ語、

ラオ語の5言語でも出版する予定です。

## 2. 無形文化遺産保護と災害リスクマネジメントに関する調査研究

アジア太平洋の国々は、地震、津波、サイクロン、洪水、火山噴火などの自然災害により、しばしば大きな被害を受けています。このような状況下において、2015年の第3回国連防災会議で採択された新しい防災方針「仙台防災枠組2015-2030」には文化遺産保護の重要性も盛り込まれ、国際的な関心が一層高まっています。しかし、無形の文化遺産についての実践的な防災や復興対策については、今後の課題となっています。

IRCIでは、過去10年間に自然災害により被害を受けたバヌアツ、フィジー、フィリピン、ベトナムなど6カ国において現地調査を行いました。また、各国から関係者を招き、災害による影響、防災や復興過程に無形文化遺産が果たす役割、今後の事業の可能性についてワーキンググループ国際会合を開催しました（東京国立博物館 平成29年1月30日）。



フィリピン国家文化芸術委員会での無形文化遺産と災害に関する議論の様子  
(平成28年7月 フィリピン)



「アジア太平洋地域における無形文化遺産と災害リスクマネジメントに関する国際予備調査」事業ワーキンググループ国際会合  
(平成29年1月 東京都台東区)

## ●行動計画3（堺市との協力による無形文化遺産に関する普及啓発活動）

無形文化遺産国際シンポジウム—技と心を受け継ぐ—

IRCI開設5周年という機会を捉え、無形文化遺産を保護し、次世代へ継承することの意義について考える一般公開の本イベントを堺市と共催し、約200人が参加しました。

松浦晃一郎氏（前ユネスコ事務局長）による基調講演、日本、マレーシア、カンボジアの研究者による無形文化遺産継承の事例に関するパネルディスカッションが行われました（サンスクエア堺 平成28年11月19日）。



無形文化遺産国際シンポジウム—技と心を受け継ぐ—  
(平成28年11月 大阪府堺市)

## ●情報発信

上記のほか、IRCIでは、その活動成果を広く公開するために、以下の刊行物を発行いたしました。

1. IRCI概要（日本語版・英語版）
2. 「ベトナム・ドンホー木版画技術を事例とする無形文化遺産のための保護措置の研究」報告書（英語版）
3. 国際専門家会合「無形文化遺産の保護に関する研究のマッピング」報告書（英語版）
4. 「無形文化遺産国際シンポジウム—技と心を受け継ぐ—」報告書（日本語版）
5. 「大メコン圏における無形文化遺産に関する法制度研究」報告書（英語版）

## 沿革

平成21年(2009)10月 センター設立がユネスコ総会で承認  
平成22年(2010)8月 日本政府とユネスコ間でのセンター設立に関する協定締結  
平成23年(2011)3月 堺市と国立文化財機構間でのセンター開設に関する協定締結  
平成23年(2011)4月 アジア太平洋無形文化遺産研究センター設置準備室設置  
平成23年(2011)10月 アジア太平洋無形文化遺産研究センター開所

## 施設概要

		(m <sup>2</sup> )
建 物	建築面積	244.67
	延面積	244.67
総室数		4 室

※建物は大阪府堺市から借用しています。

# IV 資料

## 役員（平成29年4月1日現在）

理事長（奈良文化財研究所長）	まつ 村 恵 司	監 事（非常勤）	くろしま のり こ
理 事	いげ はら みつ ひろ	監 事（非常勤）	なか もと ふみ のり
理 事（非常勤）	はし だ ス マ		

## 運営委員会（平成29年4月1日現在）

国立文化財機構の運営について各界からご意見を伺うべく、外部有識者による運営委員会を設置しています。  
運営委員会は、機構の管理運営に関する重要事項について審議を行うとともに理事長に助言することを任務としています。  
委員は20名以内で、任期2年（再任可）。

あん どう ひろ やす	独立行政法人国際交流基金理事長	た べ い き	公益財団法人大阪府文化財センター理事長
い ま むら みね お	国立歴史民俗博物館名誉教授・総合研究大学院大学名誉教授	た だ 心 み	女優
うえ はら ま ひと	辰馬考古資料館長	にし たか つじ のぶ よし	太宰府天満宮宮司
かみ い もん しやう	平等院住職	ふじ 井 譲 治	京都大学名誉教授
から いげ こう じ	九州旅客鉄道株式会社代表取締役会長	ふる 瀬 なつ こ	お茶の水女子大学基幹研究院教授
きの した おお ゆき	東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授	やま ばら まさ き	独立行政法人国立美術館理事長
き とう てい いち	ユネスコ代表部元大使	やま もと しんいちろう	宮内庁長官
し みず ま ずみ	三井記念美術館長		

（敬称略）

## 外部評価委員会（平成29年4月1日現在）

国立文化財機構では、機構の業務、調査・研究の実績について、自己点検評価を行うとともに、このことを検証し、適正な評価を行うために外部有識者による外部評価委員会を設置しています。  
委員は任期2年（再任可）。

委員長	こ ばし ただし	学習院大学名誉教授・岡田美術館館長	さか もと ひろ こ	朝日新聞社執行役員名古屋本社代表
副委員長	かわ い まさ とも	慶應義塾大学名誉教授・千葉市美術館館長	さ とう どう 信	東京大学大学院人文社会系研究科教授
	あゆ 川 眞 あき 昭	公認会計士	たま むし 敏	武蔵野美術大学造形学部教授
	いし かわ ひ で し	明治大学文学部教授	な こ や 明	公益財団法人五島美術館常務理事・副館長
	おか だ やす よし	国立館大学イラク古代文化研究所教授	はま 田 ひろ 明	桜美林大学教授
	さい とう つとむ	国立歴史民俗博物館研究部教授	ふじ 田 た ひこ	大阪大学名誉教授
	あき ばら 悟	岡崎市美術博物館館長	柳 林 修	元読売新聞編集委員

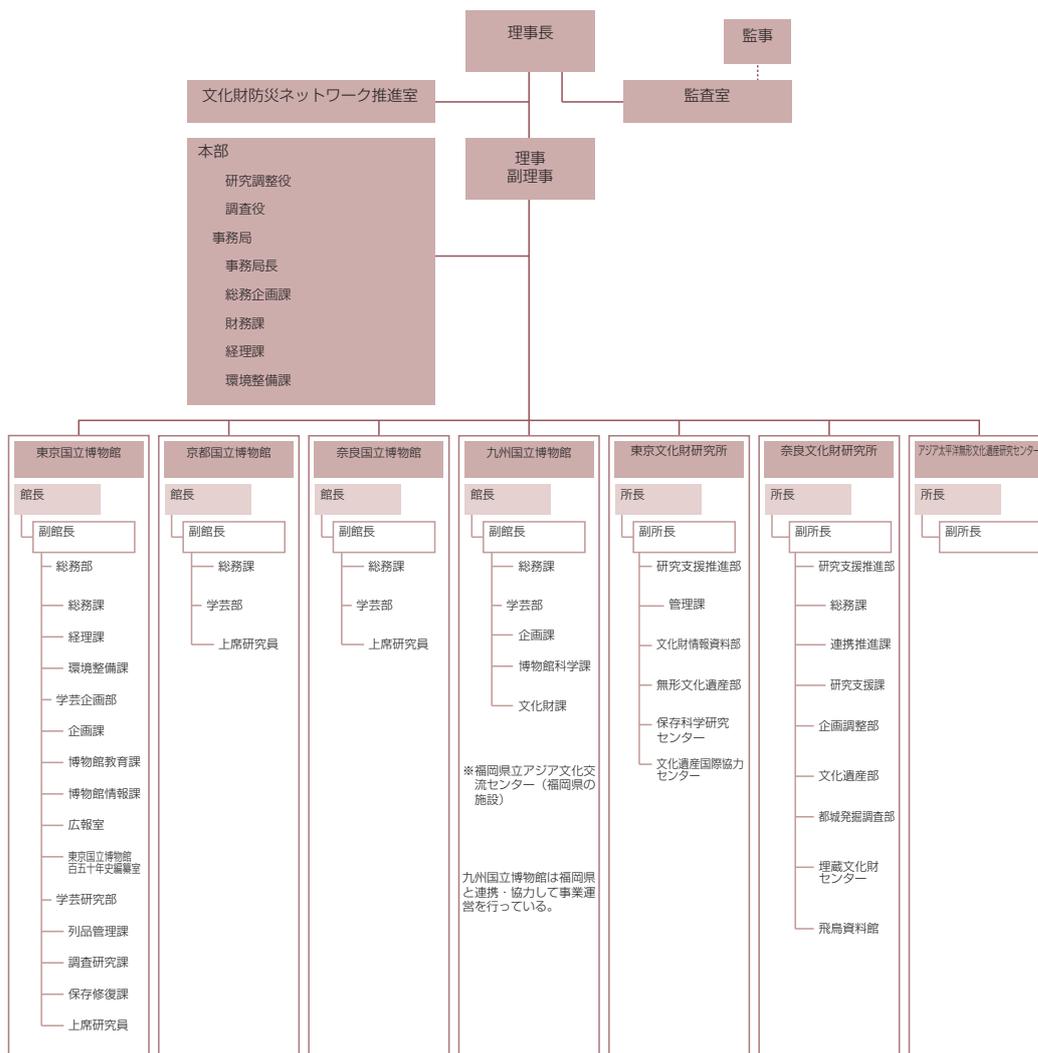
（敬称略）

## 職員数

区 分	職員	一般職	技能・労務職	専門職	研究職
計	337	129	20	3	185
本部事務局	23	22	0	0	1
東京国立博物館	98	34	12	2	50
京都国立博物館	37	18	4	0	15
奈良国立博物館	33	15	4	0	14
九州国立博物館	26	8	0	0	18
東京文化財研究所	41	7	0	0	34
奈良文化財研究所	76	23	0	1	52
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	3	2	0	0	1

（平成29年4月1日現在）

## 組織図



(平成29年4月1日現在)

## 予算

### 平成29年度予算

#### 収入予算額

(単位：千円)

	平成29年度	平成28年度
自己収入	1,575,706	1,474,731
運営費交付金	8,325,430	8,387,941
受託収入	587,444	576,849
施設整備費補助金	1,779,609	1,334,381
その他寄附金等	439,574	350,531
合計	12,707,763	12,124,433

#### 支出予算額

(単位：千円)

	平成29年度	平成28年度
運営事業費	9,901,136	9,862,672
人件費	3,448,128	3,472,102
物件費	6,453,008	6,390,570
受託事業費	587,444	576,849
施設整備費	1,779,609	1,334,381
その他寄附金等	439,574	350,531
合計	12,707,763	12,124,433

## 外部資金受入

施設	科学研究費				受託研究費（28年度）		研究助成金（28年度）	
	①科学研究費補助金（29年度）		②学術研究助成基金助成金（29年度）		件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
	件数	金額（千円）	件数 (括弧は左の内数)	金額（千円）				
本部事務局	0	0	0 (0)	0	1	29,227	1	186,000
東京国立博物館	12	51,690	8 (1)	11,180	3	47,854	3	28,112
京都国立博物館	2	9,230	6 (0)	5,590	0	0	1	3,810
奈良国立博物館	1	2,470	4 (1)	6,370	0	0	5	10,100
九州国立博物館	4	16,380	4 (0)	4,160	3	26,825	0	0
東京文化財研究所	10	28,610	14 (2)	17,550	12	158,107	3	5,125
奈良文化財研究所	17	92,010	42 (5)	43,680	41	345,648	10	6,680
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	0	0	0 (0)	0	1	51,380	1	5,000
計	46	200,390	78 (9)	88,530	61	659,041	24	244,827

※①の金額は、当初の交付決定額の29年度分の金額です。  
 ※②の金額は、複数年度の事業の場合、当初の交付決定時に各年度分の交付額が示されます。  
 ※同一の研究課題で①と②の両方が交付されるもの（一部基金分）の件数はそれぞれに含み、②の件数の括弧書きは共通するもの内数です。  
 また金額には間接経費を含みます。  
 ※受託研究費は機構内の委託を除きます。

## 国立文化財機構からのお知らせ

### ○寄附・寄贈

#### 【寄 附】

独立行政法人は国から運営費交付金や施設整備費補助金を得て事業運営していますが、厳しい財政状況や効率化を図る観点から、広く外部資金を導入し経営に役立てることが求められています。国立文化財機構も例外ではなく、入場料以外にも収入の道を確保しなければなりません。このような趣旨から、個人・団体を問わず広く皆様にご支援をお願いしています。

国立文化財機構は、税法上の優遇措置の対象となる「特定公益増進法人」となっており、機構へ寄附を行う個人・団体は、当該寄附金について一般の法人に対する寄附金とは異なる所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

#### ▶所得税

個人が特定公益増進法人等に寄附を行った場合には、一定額を所得税の課税所得から控除することが出来る「寄附金控除」または「税額控除」の制度が設けられており、いずれが有利な方の選択が可能です。

この「寄附金控除」については、平成22年度税制改正において、適用下限額が5千円から2千円に引き下げられました。これにより、特定公益増進法人等に対する寄附金の額が年間合計で2千円を超えれば減税の対象となりました。

⇒「寄附金（総所得金額等の40%を限度）-2千円」を所得から控除することができます。

※なお、個人住民税についても、お住まいの自治体の条例により当機構が寄附金控除の対象とされている場合、寄附金控除の対象となります。

#### ▶法人税

法人が特定公益増進法人等に寄附を行った場合には、支出した特定公益増進法人等への寄附金額を、一般の寄附金とは別枠で損金に算入することができます。また、平成23年度12月期税制改正では、さらに寄附金の優遇措置の拡充が図られ、寄附金の損金算入限度額が拡大されました。

⇒ 特別損金算入限度額＝〔資本金等の金額×0.375%（改正前0.25%）＋所得金額の6.25%（改正前5%）〕×1/2（事業年度一年未満の法人の場合は、一定の月数按分が必要となります。また、資本金等のない法人（NPO法人など）については、算式が異なります。）

#### 【寄 贈】

国立文化財機構では、文化財を保存・管理、調査研究、展示などでの公開に活用しています。これらの事業を行うため文化財を計画的に購入するほか、文化財を所有される方からのご寄贈も頂いております。

ご寄附・ご寄贈に関するご相談や手続きについては、以下にお問い合わせください。

施設名	寄附	寄贈	お問合せ先
東京国立博物館	総務部経理課	学芸研究部列品管理課	03-3822-1111（代表）
京都国立博物館	総務課財務係	学芸部列品管理室	075-541-1151（代表）
奈良国立博物館	総務課財務係	学芸部企画室	0742-22-7772（寄附・直通） 0742-22-7774（寄贈・直通）
九州国立博物館	総務課財務係	文化財課資料登録室	092-918-2807（代表）
東京文化財研究所	研究支援推進部管理課企画渉外係		03-3823-2249（直通）
奈良文化財研究所	研究支援推進部総務課		0742-30-3916（直通）
アジア太平洋無形文化遺産研究センター	総務担当		072-275-8050（直通）
（施設を特定しない場合）	本部事務局財務課		03-3822-2439（直通）

## ○会員制度

広くご支援を頂き運営基盤を確保するため、東京国立博物館・奈良国立博物館では賛助会員制度を設けているほか、京都国立博物館では一般社団法人清風会による支援を頂いております。

また、お客様により博物館に親しんでいただくために、東京・京都・奈良・九州の4国立博物館では様々な会員制度を設けております。この度、国立文化財機構発足10周年を記念して、4館共通の国立博物館メンバーズパス制度を設けました。皆様のご利用をお待ちしております。

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
名称		国立博物館メンバーズパス			
年会費	一般	2,000円(税込)			
	学生	1,000円(税込)			
特典	平常展	東京：総合文化展、京都：名品ギャラリー、奈良：名品展、九州：文化交流展 ・会員証のご提示により、何回でも無料でご観覧いただけます(ご本人様のみ)。			
	特別展	4館で開催する特別展を、割引料金で何回でもご観覧いただけます。 ・各館券売所にて、会員証のご提示により、団体料金で観覧券をご購入いただけます(ご本人様分のみ)。 ・学生の方は大学生(団体料金)の観覧券をご購入いただけます(ご本人様分のみ)。			
お申込方法		各館の窓口ほか、郵便振替等によってもお申し込みの受付を行っております。			
お問合せ先		総務課 会員制度担当 03-3822-1111(代表)	総務課 事業推進係 075-531-7504(直通)	総務課 企画推進係 0742-22-4450(直通)	総務課 092-918-2807(代表)



## 【キャンパスメンバーズ】

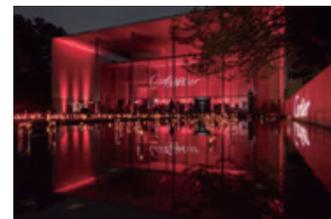
各国立博物館では、大学や専修学校等を対象としたキャンパスメンバーズ制度を設けております。本制度は大学等と博物館との連携を深め、学生の皆さんにより博物館に親しんでいただく機会を提供することを目的としています。

学生数に応じた年会費をお支払いいただくことにより、平常展(総合文化展、名品ギャラリー、名品展、文化交流展)を無料でご観覧いただけるなど各博物館で様々な特典をご用意しています。

## ○ユニークベニュー

各国立博物館では、施設をMICE事業などに活用するユニークベニューとしての施設利用を推進しております。企業のパーティーや新製品発表会などさまざまな用途で、館内の施設をご利用いただいております。

※MICE=Meeting、Incentive Travel、Convention、Exhibition/Eventの頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。



東京国立博物館におけるカルティエハイジュエリー受注イベント(平成28年度)

## ○多様な観覧機会の確保

各国立博物館では、観覧機会の拡充を目的として、金・土曜日の開館時間を延長するとともに、様々な夜間イベントを実施しています。

また、外国人観光客にも展示を理解していただけるよう、平常展及び特別展の展示解説・キャプション・音声ガイド等について、英語・中国語・韓国語での対応を推進しています。



九州国立博物館における開館時間延長のチラシ



東京国立博物館における夜間イベント「野外シネマ」(平成28年7月16日)



奈良国立博物館における4か国語を併記したキャプション



JR 上野駅公園口、または鶯谷駅下車 徒歩 10 分

東京メトロ 銀座線・日比谷線上野駅、

千代田線根津駅下車 徒歩 15 分

京成電鉄 京成上野駅下車 徒歩 15 分



独立行政法人  
国立文化財機構

〒110-8712 東京都台東区上野公園 13 番 9 号

電話：03-3822-1196

URL：<http://www.nich.go.jp/>